

あれ(一)は
もの(二)なりし
も(三)なり

かんれん

あつてまじいとも
と(一)り(二)り(三)り(四)り(五)り
あつたけ(六)あつたけ(七)あつたけ(八)
あつたけ(九)あつたけ(一〇)あつたけ(一一)
あつたけ(一二)あつたけ(一三)あつたけ(一四)
あつたけ(一五)あつたけ(一六)あつたけ(一七)
あつたけ(一八)あつたけ(一九)あつたけ(二〇)
あつたけ(二一)あつたけ(二二)あつたけ(二三)
あつたけ(二四)あつたけ(二五)あつたけ(二六)
あつたけ(二七)あつたけ(二八)あつたけ(二九)
あつたけ(三十)あつたけ(三一)あつたけ(三二)
あつたけ(三三)あつたけ(三四)あつたけ(三五)
あつたけ(三六)あつたけ(三七)あつたけ(三八)
あつたけ(三九)あつたけ(四〇)あつたけ(四一)
あつたけ(四二)あつたけ(四三)あつたけ(四四)
あつたけ(四五)あつたけ(四六)あつたけ(四七)
あつたけ(四八)あつたけ(四九)あつたけ(五〇)
あつたけ(五一)あつたけ(五二)あつたけ(五三)
あつたけ(五四)あつたけ(五五)あつたけ(五六)
あつたけ(五七)あつたけ(五八)あつたけ(五九)
あつたけ(六〇)あつたけ(六一)あつたけ(六二)
あつたけ(六三)あつたけ(六四)あつたけ(六五)
あつたけ(六六)あつたけ(六七)あつたけ(六八)
あつたけ(六九)あつたけ(七〇)あつたけ(七一)
あつたけ(七二)あつたけ(七三)あつたけ(七四)
あつたけ(七五)あつたけ(七六)あつたけ(七七)
あつたけ(七八)あつたけ(七九)あつたけ(八〇)
あつたけ(八一)あつたけ(八二)あつたけ(八三)
あつたけ(八四)あつたけ(八五)あつたけ(八六)
あつたけ(八七)あつたけ(八八)あつたけ(八九)
あつたけ(九〇)あつたけ(九一)あつたけ(九二)
あつたけ(九三)あつたけ(九四)あつたけ(九五)
あつたけ(九六)あつたけ(九七)あつたけ(九八)
あつたけ(九九)あつたけ(一〇〇)あつたけ(一〇一)

あつたけ(一〇二)あつたけ(一〇三)あつたけ(一〇四)
あつたけ(一〇五)あつたけ(一〇六)あつたけ(一〇七)
あつたけ(一〇八)あつたけ(一〇九)あつたけ(一一〇)
あつたけ(一一一)あつたけ(一一二)あつたけ(一一三)
あつたけ(一一四)あつたけ(一一五)あつたけ(一一六)
あつたけ(一一七)あつたけ(一一八)あつたけ(一一九)
あつたけ(一二〇)あつたけ(一二一)あつたけ(一二二)
あつたけ(一二三)あつたけ(一二四)あつたけ(一二五)
あつたけ(一二六)あつたけ(一二七)あつたけ(一二八)
あつたけ(一二九)あつたけ(一三〇)あつたけ(一三一)
あつたけ(一三二)あつたけ(一三三)あつたけ(一三四)
あつたけ(一三五)あつたけ(一三六)あつたけ(一三七)
あつたけ(一三八)あつたけ(一三九)あつたけ(一四〇)
あつたけ(一四一)あつたけ(一四二)あつたけ(一四三)
あつたけ(一四四)あつたけ(一四五)あつたけ(一四六)
あつたけ(一四七)あつたけ(一四八)あつたけ(一四九)
あつたけ(一五〇)あつたけ(一五一)あつたけ(一五二)
あつたけ(一五三)あつたけ(一五四)あつたけ(一五五)
あつたけ(一五六)あつたけ(一五七)あつたけ(一五八)
あつたけ(一五九)あつたけ(一六〇)あつたけ(一六一)
あつたけ(一六二)あつたけ(一六三)あつたけ(一六四)
あつたけ(一六五)あつたけ(一六六)あつたけ(一六七)
あつたけ(一六八)あつたけ(一六九)あつたけ(一七〇)
あつたけ(一七二)あつたけ(一七三)あつたけ(一七四)
あつたけ(一七五)あつたけ(一七六)あつたけ(一七七)
あつたけ(一七八)あつたけ(一七九)あつたけ(一八〇)
あつたけ(一八二)あつたけ(一八三)あつたけ(一八四)
あつたけ(一八五)あつたけ(一八六)あつたけ(一八七)
あつたけ(一八九)あつたけ(一九〇)あつたけ(一九一)
あつたけ(一九二)あつたけ(一九三)あつたけ(一九四)
あつたけ(一九五)あつたけ(一九六)あつたけ(一九七)
あつたけ(一九八)あつたけ(一九九)あつたけ(二〇〇)
あつたけ(二〇二)あつたけ(二〇三)あつたけ(二〇四)
あつたけ(二〇五)あつたけ(二〇六)あつたけ(二〇七)
あつたけ(二〇八)あつたけ(二〇九)あつたけ(二一〇)
あつたけ(二一一)あつたけ(二一二)あつたけ(二一三)
あつたけ(二一四)あつたけ(二一五)あつたけ(二一六)
あつたけ(二一七)あつたけ(二一八)あつたけ(二一九)
あつたけ(二二〇)あつたけ(二二一)あつたけ(二二二)
あつたけ(二二四)あつたけ(二二五)あつたけ(二二六)
あつたけ(二二八)あつたけ(二二九)あつたけ(二三〇)
あつたけ(二三三)あつたけ(二三四)あつたけ(二三五)
あつたけ(二三六)あつたけ(二三七)あつたけ(二三八)
あつたけ(二四〇)あつたけ(二四一)あつたけ(二四二)
あつたけ(二四四)あつたけ(二四五)あつたけ(二四六)
あつたけ(二四八)あつたけ(二四九)あつたけ(二五〇)
あつたけ(二五二)あつたけ(二五三)あつたけ(二五四)
あつたけ(二五七)あつたけ(二五八)あつたけ(二五九)
あつたけ(二六一)あつたけ(二六二)あつたけ(二六三)
あつたけ(二六五)あつたけ(二六六)あつたけ(二六七)
あつたけ(二七〇)あつたけ(二七一)あつたけ(二七二)
あつたけ(二七五)あつたけ(二七六)あつたけ(二七七)
あつたけ(二八〇)あつたけ(二八一)あつたけ(二八二)
あつたけ(二八五)あつたけ(二八六)あつたけ(二八七)
あつたけ(二九〇)あつたけ(二九一)あつたけ(二九二)
あつたけ(二九五)あつたけ(二九六)あつたけ(二九七)
あつたけ(三〇〇)あつたけ(三〇一)あつたけ(三〇二)
あつたけ(三〇五)あつたけ(三〇六)あつたけ(三〇七)
あつたけ(三一〇)あつたけ(三一〇)あつたけ(三一〇)
あつたけ(三一〇)あつたけ(三一〇)あつたけ(三一〇)

あつたけ(三二〇)あつたけ(三二〇)あつたけ(三二〇)
あつたけ(三二〇)あつたけ(三二〇)あつたけ(三二〇)

あつたけ(三三〇)あつたけ(三三〇)あつたけ(三三〇)
あつたけ(三三〇)あつたけ(三三〇)あつたけ(三三〇)



年不詳十月廿三日付け仙石忠政書状（仙石家17―9号）

返々、早々まいらせ
候はんを、ちいさく
なつきけな物なる
さる、いつかたにも
なく候て、あるほと
たつね候てまいらせ候、
大かたにそんなしられ候ましく候、
此ものにも
みち中かわゆかり
候へと、かたく申付候、
くわしくは
おはえ申つかはし候、
やかて又いぬ・こせう
つかはし候べく候、
かしく、

やくそく申候こさるの
事、はうく
たつね、やうくこん
にちとり出し候
まま、だかせ候てつか
はし候、大きなる
さるは、しせんに御座候、
ても、これほどちい
さく、殊なつき
たるはなき事にて候、
ひさうあるべく候、
一、事の外さむがり
申候間、おぼへ申候て
きる物をさせ、きせ
られ候べく候、人に
だかれたかり候間

其心へ候て、だかせ
候べく候、

一、
よるはふところ
にたかせ候て、ねさせ
候べく候事、

一、
これほとかわゆき
よきさるは、につ
ほんこくをたつね候て
も有ましく候間、き
つくなふり申
さす、かわゆかり
尤候、貴殿さるの事
いろくそこともと
にて被申候間、すいふん
我々せいに入候て、
三日ぢ四日ぢここともと
まわりをたつねて
人のひさういたし候
をとり候てまいらせ候、
きけんすいりやう申候、
めてたくかしく、

兵太

十月廿三日 忠政（花押）
（政勝）

万千代殿 まいる